

社会福祉法人 愛隣団 略史

- 1920 02 カナダ・メソヂスト教会宣教師 J. W. サンビー博士は、敬神と奉仕を一体として行うべきとして、日本メソヂスト教会東京部に社会事業を行う東部伝道教区を設定した。内務省嘱託生江孝之を介して、東京府慈善協会が日暮里金杉 1 5 9 2 ~ 9 4 番地で実施する細民地区改良事業に連携して活動することとし、隣接する 1 6 0 4 番地の民家を借り、亀戸教会牧師大井蝶五郎牧師夫妻により、細民の更生相談、不就学児童の義務教育を開始し、この主体を「愛隣団」と名付けた。これが愛隣団の創業である。
- 09 この地区改良事業に併設の商店街の一軒を借りて、診療所を開設、巡回助産と無料診療を開始した。サンビー博士は、此処に本部を構えて住むため家を求め、小林弥太郎氏から、下根岸 106 番地 256 坪の別邸を寄贈されたが、肝臓癌で急遽帰国し、後任の P. G. プライス宣教師が愛隣団の事業を継承した。
- 1921 01 プライス宣教師は、別邸の庭に木造 2 階建 2 8 坪の「愛隣園」を建て、一階を教会堂兼幼稚園、二階で諸集会を行い、私立愛隣幼稚園（定員 5 0）の認可を取得した。また、夜間の英語学校を開設した。
- 04 前記小林弥太郎氏の援助で、日暮里金杉 1 5 0 2 番地の工場建物を取得、これを改造して木造二階建の「愛隣保館」とし、救済部・小学部・診療所をここに移し、事業規模を拡張した。
- 1922 05 小学部で、児童の就学促進のために行った授産活動を拡張して、授産工業部とした。
- 06 小学部の特殊小学校は、正規の「私立愛隣尋常小学校」として認可を取得した。
- 10 小学部に裁縫夜学校を開設した。
- 1923 04 愛隣小学校で学校弁当（給食）を提供した。一食 2 銭、貧児は無料とし、出席率が向上した。
- 09 関東大震災。日暮里の愛隣保館と下根岸の愛隣園は倒壊し、下根岸の園庭に天幕を張って愛隣小学校の授業を開始した。また、向島吾嬭町にも天幕を張って罹災者を收容した。
- 11 東京府からバラックを提供され、下根岸に罹災者宿泊所を開設した。東京府の復興事業として、吾嬭町に男子労働者のための労働館を建て、8 0 名を收容した。
- 1924 02 日暮里の愛隣保館を再建。木造二階建の本格的施設とし、救済部・小学部・診療所・授産工業部に加えて、社会教育部を開設、社会問題研究と生活改善運動を開始した。児童図書室も開設、助葬も行った。愛隣保館の事業独自性が明らかになったのを受けて、下根岸の愛隣園も地域性を反映させることとし、根岸会館と改称した。
- 09 吾嬭町の労働館も、当初の使命を終えて、地域の必要に応える隣保館となり、共勵館と改称した。愛隣団・根岸会館・共勵館は、それぞれの地域特性に応じて、教会と社会事業を連携させて行う団体で、プライス宣教師のもと、それぞれの教会担任と社会事業主事はその運営に当たった。
- 1925 11 愛隣団の事業展開は次のとおりである。
- 社会教育部では、前記の社会問題研究・生活改善運動のほか延長教育として公民講座を開設した。救済部では、貧困救護、婦人保護、養老保護、要保護児童指導、入院手続、戸籍手続などの保護事業、小学部では、小学生徒 1 8 9 名、入浴・調髪・給食のほか裁縫夜学校、貯金会などを実施。診療部では、受診者一日 6 5 名、うち施療 3 0 名、実費 3 5 名、巡回助産を行った。授産部では、セルロイド等加工を廃止して、印刷部門を新設した。
- 1926 04 小学校卒業生の就職条件改善のため私立愛隣中学校を開設した。生徒 4 2 名。
- 児童部を新設。女子幼年クラブ、少女クラブ、家事クラブ、男子の科学クラブ、運動クラブを開設。
- 11 プライス宣教師の帰国で、G・E・バット宣教師がミッション代表に就任。児童図書室を拡充して愛隣図書館に、印刷部門を閉鎖して、不用品リサイクルの厚意授産部を開設し、教員に愛隣袋を寄託し、バット宣教師がサイドカーで集荷して、これを低価で販売した。
- 1927 04 吾嬭町の共勵館に、亀戸愛清館の支援で、吾嬭幼稚園を開設した。
- 05 根岸会館を鉄筋コンクリート 4 階建に改築。幼稚園、英語学校、児童図書室、児童遊園を開設した。英語学校が東京府の認可を得た。
- 07 日暮里愛隣団に新館増築し、裁縫夜学校、職員宿舎を開設した。

- 1928 11 愛隣中等学校が認可された。生徒70名。教員31名。
- 1929 11 愛隣団・根岸会館・共勵館の社会事業は、日本メソヂスト教会社会事業連盟の構成団体となった。この時点で、日暮里地区の1,010戸、3724人を対象とする愛隣団の事業は以下のとおり。
 教育的事業：愛隣中学校、愛隣尋常小学校、公民講座、愛隣図書館、社会事業研究。
 修養娯楽事業：成人クラブ・音楽クラブ・女子青年会・卓球クラブ
 経済的事業：厚意授産、貯金組合、裁縫夜学校、向上資金貸付（朝日新聞出世資金の受託事業）
 保健的事業：愛隣診療所、助産、母子キャンプ
 児童保護事業：各種の少年クラブ、各種の少女クラブ、児童図書室、夏季キャンプ
- 1930 07 房総竹岡で児童キャンプ。以降、毎年7月に竹岡で児童キャンプを実施。
- 1931 01 日暮里金杉で大火発生、47戸全焼、救援活動を行う。
 04 愛隣小学校で学力低下を補う復習学校を実施。
- 1932 ー 愛隣団の昭和7年度事業実績は夏季の通り。以降もほぼ同水準で推移。
 愛隣尋常小学校：生徒数151人、授業日数250日、給食：平均47人、日数225日
 裁縫女学校：延べ250人。 児童復習学校：延べ1,505人
 愛隣中学校：生徒数50人、授業日数250日。 公民講座：延べ863人
 愛隣図書館：利用者延べ数、成人15,351人、児童29,829人
 各種クラブ：8クラブ2,400人。老人慰安会：参加数972人。特別集会：参加数1800人。
 救済部：保護・援助・支援1,505人。診療所利用者18,219人。キャンプ参加者635人。
 厚意授産：賛助者1,682人。歳末のし餅配給：650家族。
- 1935 06 カナダ・メソヂスト教会宣教師社団の経営にかかる愛隣団・根岸会館・共勵館の社会事業を、日本メソヂスト教会の傘下で行うために、それぞれ財団法人とした。設立当初の役員は以下の通り。
 理事：生江孝之、遠山元一、杉原錦江、山下静子、眞鍋頼一、GEバット、PGプライス、LSオールブライト。監事：杉原征一郎、檜山金彦。 宣教師社団所有の金杉1502番の土地240坪、木造二階建延べ237坪と木造平屋建24坪を財団法人に寄附し、GEバットを代表として認可申請。
- 1936 02 診療所を改築し、設備を改善した。
 09 財団法人愛隣団が認可され、初代理事長に眞鍋頼一が就任した。
 当時の愛隣団事業は以下のとおり（名称は報告書とおり）。
 教育的施設：愛隣尋常小学校（生徒123教員8）愛隣中等学校（生徒62教員14）
 復習学校（生徒68）愛隣裁縫女学校（生徒20教員2）補導学級（生徒42指導員3）
 公民講座（）愛隣図書館（利用者5,952） 社会事業研究員（8）
 教化的施設：日曜学校（生徒125教師10）婦人会（会員122）夏季学校（生徒123）
 修養娯楽施設：各種成人クラブ。老人会。慰安会。
 経済的施設：厚意授産部。 貯金会（会員251） 生業資金融通（利用者49）
 救済的施設：人事・法律・病者の相談（延べ511件）助葬（204件）金品給与（920件）
 養老保護。乳幼児保護。
 保健的施設：一般診療（延べ20,000人）助産（204件）訪問衛生指導。
 児童保護施設：少年少女クラブ（クラブ8会員177）児童図書館（延べ20,500）
 余暇指導。児童給食（延べ14,059）
 調査研究施設：家庭調査。性能調査。貧困保健問題調査。
 夏季キャンプ：児童キャンプ（81）母子キャンプ（18）勤労青年キャンプ（5）延べ1040名
- 1937 07 支那事変。続いて08 上海事変。日中戦争。 1939 09 第二次世界大戦。
- 1941 12 太平洋戦争。宣教師は強制送還。日暮里で28,000世帯が強制疎開。

- 1945 03 大規模空襲で東京一帯が灰燼に帰し、愛隣団・根岸会館・共勵館は焼失した。
愛隣団は、罹災児童を連れて、閉鎖されていた足立区本木の愛恵学園で罹災者救援と児童保護を続けた。
- 08 太平洋戦争敗戦。愛恵学園での事業を継続。
- 1946 04 G Eバット氏が、L A R A 救援物資の責任者として米軍将校の資格で来日。教会関係の修復に尽力。
A R ストーン宣教師も来日して、国に接收された宣教師社団関係の財産の回復に尽力。
益富篤子姉が、送還されたフィリピンの日系孤児を引取って、古巣の愛恵学園で愛隣団と合流する。
愛恵学園のM A ペイン宣教師も再来日して、その再興を目指し、愛隣団と孤児たちは立ち退くことに。
- 1948 03 カナダ宣教師社団の援助で、根岸会館の焼けビルを修復し、愛隣団の保育事業を移し、3階に孤児たちの
育児部を設けた。診療所、青少年クラブ、英語学校も復活させた。
- 07 愛隣保育園は、児童福祉法による保育所として認可された。園児数83名。
引揚孤児ら19名の育児部は、児童福祉法による児童養護施設として認可された。
L A R A 救援物資の配布センターとしてミルクステーションを開設した。
- 1950 05 日暮里金杉の愛隣団土地の事業復活が計画された。
- 1952 05 財団法人愛隣団は、社会福祉事業法による社会福祉法人として厚生大臣の変更認可をうけた。
この年、バット博士が死去。
- 1953 ー 愛隣保育園・愛隣育児部は受託児童が増加し、診療所も復活、クラブ活動、英語教室も盛んになった。
- 1954 ー 愛隣保育園（受託児166開園293日）育児部（受託児29）診療所（患者月123）。
社会部：各種相談・指導（月10件）L A R A 物資配布（衣類月33、ミルク月39）
クラブ（会員数）：学習会（25）児童英語（16）英会話（24）珠算（29）絵画クラブ（11）
バレエ教室（41）ピアノ教室（36）ボーイスカウト（22）
児童図書（利用・貸出）保護世帯の年末招待・慰問・相談、運動場の利用など。
この年9月、ストーン宣教師が洞爺丸沈没事故で死去した。
- 1956 03 育児部を、世田谷桜親町の基督教児童福祉会に移管して、バット博士記念ホームと改称した。
- 1960 04 日暮里3丁目の愛隣団敷地は、施設復旧の計画を止め、一部を東京愛隣教会用地として譲渡し、他を
売却して、根岸会館の全面改修に当てることにした。保育園以外は事業休止とした。
- 1963 01 改修工事終了。休止の諸事業を復活させ、勤労青年のフォークダンス・スクエアダンス・コーラスの
活動を再開した。地域活動をアピールする愛隣フェスティバルを開催した。
- 1964 ー 音楽クラブ、社交ダンス、婦人の集い、会社員・大学生のフレンドシップグループを開設した。
- 1967 10 保育園の入園希望者が定員の2倍に達し、保育室の増設を計り、運動場に鉄筋コンクリート2階建の
新館を計画した。
- 1968 05 新館落成。本館の保育室の改造、調理室の移転と整備を行った。
- 1969 ー ミッション援助金の削減に伴い、隣保部門の活動を児童部門に縮小し、青少年部門を廃止した。
保育園は3歳未満児の増員を計り、3階の隣保部分を保育用に改造し、避難用の鉄骨階段を設置した。
保育園の認可定員を200名とした。
- 1970 04 隣保事業を全面的に廃止し、保育事業に限定した。
- 1987 04 地域の人口減少と少子化に伴い、保育需要が激減したので、保育園定員を150名に変更した。
- 1993 04 保育園は、産休明け保育・特例保育を実施するために定員を120名に変更した。
- 1996 04 延長保育を実施。
- 2002 04 台東区立さくら荘（母子生活支援施設10世帯）の経営管理を受託した。
- 2005 04 さくら荘を指定管理制に従って受託し、これを更新して現在にいたる。
- 2013 04 昭和2年建設の現建物の老朽化・不便性と耐震性の著しい不足で、補助金・融資金の支援をうけて
130名定員の規模で全面改築に踏み切る。2014年3月に竣工を予定している。